

# The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 寺本 亮洞  
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

平成30(2018)年7月1日 日曜日  
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



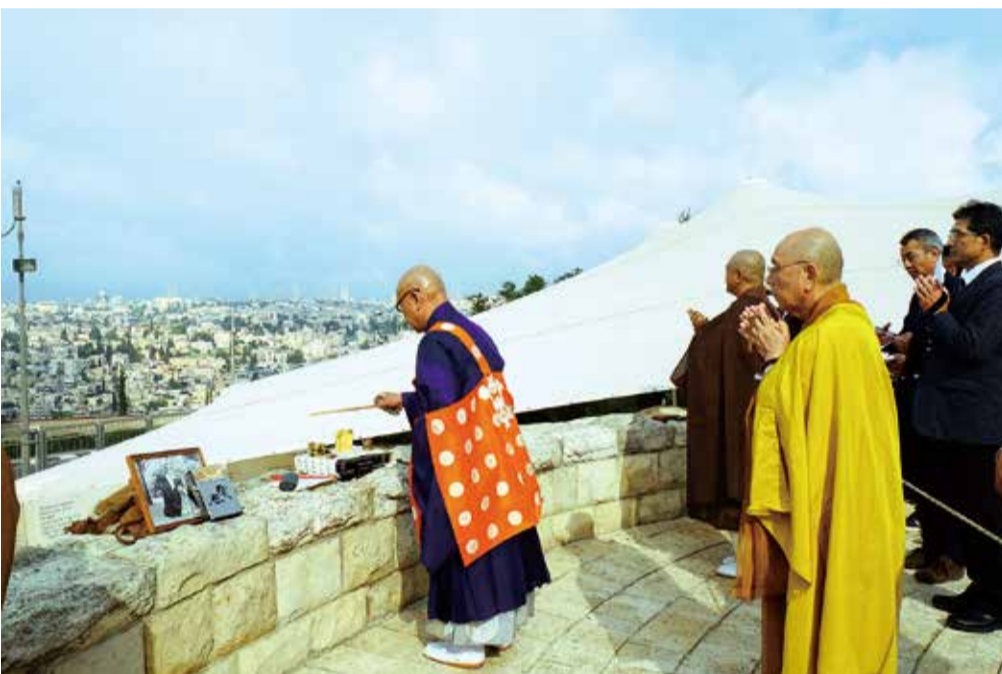
## エルサレムで世界平和祈願

### 弟子ら、葉上師の足跡を辿って

イスラエルの都市エルサレムのスコープス山で6月13日、天台宗僧侶ら有志が世界平和を祈願する法要を執り行った。同法要は、天台宗の高僧として知られる「葉上照澄大阿闍梨の足跡を辿る」行事の一環として行われたもの。代表の横山照護心院住職(延暦寺一山)は、法要で「この地において有志の善侶、清衆相集い謹んで世界平和への誠の祈りを捧げる」と表白を奏上した。エルサレムで天台宗僧侶が平和祈願法要を厳修するのは初めて。

今回の「祈りの旅」は、横山住職が発起人となり、川口圓玄海岸寺住職(東海教区)が事務局長となって企画。天台宗僧侶のほか学生時代から葉上大阿闍梨の篤信者である田中孝一ダイセーグループ会

長(東京)ら15名が参加して6月10日から16日まで行われた。エルサレムはキリスト教、イスラーム、ユダヤ教の聖地であり、それゆえに多種多様な人種、民族が交差し、紛争



エルサレム市街を一望するスコープス山で世界平和を祈る横山代表

大阪府北部地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

天台宗 一隅を照らす運動総本部

が残る地である。

横山住職は法要で「平和を願う心は国、人種、宗教を超越するものと信ずる。光は影を忘れてはならない。平和を実現しようとして大地に散った幾多の御霊の影があることを忘れてはならない。我らは兄弟の悲壮な最期を忘れることなく、この地上に誠の平和を実現する義務があることを改めて痛感する者である。その実現に向けて各々成すべきを成しゆくことこそ、兄弟の霊を慰める最善の道と確信す

が実現する義務があることを改めて痛感する者である。その実現に向けて各々成すべきを成しゆくことこそ、兄弟の霊を慰める最善の道と確信す

### 戸津説法

説法師に 佐々木光澄師



佐々木光澄師

比叡山延暦寺浄土院で6月4日に執り行われた長講会において、今年の戸津説法師に佐々木光澄延暦寺一山五智院住職が、森川宏映天台座主猊下より指名された。

戸津説法は宗祖伝教大師が両親の供養と民衆教化のため琵琶湖畔の戸津浜で説法をしたのが始まりとされる。毎年8月21日から25日の5日間、下阪本の東南寺で法華經の説法が行われることから東南寺説法とも称される。戸津説法は「天台座主への登竜門」とも称されており、説法師をつとめると、将来天台座主への道が開ける。佐々木師は昭和22年生まれ、71歳。大僧正。京都大学経済学部卒。延暦寺副執行、延暦寺一山会議議長などを歴任。現在は延暦寺学園常任理事、事務局長をつとめている。

戸津説法は宗祖伝教大師が両親の供養と民衆教化のため琵琶湖畔の戸津浜で説法をしたのが始まりとされる。毎年8月21日から25日の5日間、下阪本の東南寺で法華經の説法が行われることから東南寺説法とも称される。戸津説法は「天台座主への登竜門」とも称されており、説法師をつとめると、将来天台座主への道が開ける。佐々木師は昭和22年生まれ、71歳。大僧正。京都大学経済学部卒。延暦寺副執行、延暦寺一山会議議長などを歴任。現在は延暦寺学園常任理事、事務局長をつとめている。

### 極微

来年の今頃は新しい元号になっているが、たぶん、馴染めない状態だろうし、馴れるまでには時間がかかるに違いない。この元号というものは、日本にしかない。もとは紀元前2世紀の中国に発するが、今では中国でも使われていない▼「明治」という元号は、候補に上がった幾つかの元号の中から天皇がくじを引いて決まったそう。また、「昭和」という元号の誕生にも逸話がある。ある新聞社が元号が公表される前にスクープとして「光文」と大々的に報道した。その速報を知った政府筋は、事前に漏れたことをまずいと思っただろう。急遽「昭和」に差し替えたという。新元号が発表される来年の5月1日前には報道機関によるスクープ合戦が起こっているかもしれない▼元号が変わると、役所の書類や免許証の表示も変えねばならないし、特にカレンダー業界などは元号や祝日の変更など大変だろう。合理性から云えば、たしかに西暦表示のほうが、変更もなく世界標準でスッキリしている。だが、江戸時代以前と違って明治以降は天皇在位期間に一つの元号を充てる「一世一元」となったから、それぞれの時代を象徴的に表現でき、便利でもある。例えば「頑固な明治男」とか「大正デモクラシー」など、その言葉で時代の雰囲気がよく分かる。それにしても「昭和は遠くになりけり」である。